

科目名	心理学概論		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として心理学の入門科目である。全ての専門科目の基礎として、人間の行動と心を科学的に理解する態度と視座を身につける。

科目の概要

心理学の概要（成り立ち・経過・領域など）を学ぶなかで、経験科学としての心理学の特質や特徴についての理解を深める。さらに、心理学の代表的な事項を取り上げて学ぶ中で、心理学的に理解することや考えることを身につけていく。

学修目標

受講生が、心理学の基礎的用語や理論を身につけることが第一である。第二に、人間の行動や心について、自らの経験から感覚的に考えたり理解してきた方法を離れて、心理学の理論的な考え方や科学的な理解の方法を、自分の考え方・理解の方法として活用できることが目標である。

内容

- 1．心理学とは、心とは何か
- 2．心理学は何を研究しているのか
- 3．どのような心理学があるのか
- 4．見える仕組み
- 5．覚えること・思い出すこと
- 6．わかるとはどういうことか
- 7．こころを知るこころ
- 8．できるようになること
- 9．やる気・がんばろうとは
- 10．気持ちとは何か
- 11．育っていくこころ
- 12．人と関わること
- 13．自分らしさとは
- 14．こころの問題
- 15．まとめ

評価

授業内小課題（40点）と筆記（60点）の計100点。 再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考書・推薦書：授業時に指示する。

科目名	心理学概論		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として心理学の入門科目である。全ての専門科目の基礎として、人間の行動と心を科学的に理解する態度と視座を身につける。

科目の概要

心理学の概要（成り立ち・経過・領域など）を学ぶなかで、経験科学としての心理学の特質や特徴についての理解を深める。さらに、心理学の代表的な事項を取り上げて学ぶ中で、心理学的に理解することや考えることを身につけていく。

学修目標

受講生が、心理学の基礎的用語や理論を身につけることが第一である。第二に、人間の行動や心について、自らの経験から感覚的に考えたり理解してきた方法を離れて、心理学の理論的な考え方や科学的な理解の方法を、自分の考え方・理解の方法として活用できることが目標である。

内容

- 1．心理学とは、心とは何か
- 2．心理学は何を研究しているのか
- 3．どのような心理学があるのか
- 4．見える仕組み
- 5．覚えること・思い出すこと
- 6．わかるとはどういうことか
- 7．ところを知るころ
- 8．できるようになること
- 9．やる気・がんばろうとは
- 10．気持ちとは何か
- 11．育っていくころ
- 12．人と関わること
- 13．自分らしさとは
- 14．こころの問題
- 15．まとめ

評価

授業内小課題（40点）と筆記（60点）の計100点。再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考書・推薦書：授業時に指示する。

科目名	発達心理学概論		
担当教員名	内田 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.科目の性格：発達心理学的研究方法論の基礎を理解する。
- 2.科目の概要：言語と認識の関わりからの視点から、5つのトピックをとりあげ、人間発達過程について理解する。
人間発達の可塑性、言語・認知の発達、想像力の発達、読み書き能力の発達、子ども理解
- 3.学修目標：子どもの発達、言語と認識の関係について、自分なりのイメージを描けるようになること。発達心理学の方法論について理解すること。

内容

- 1.受講のところがまえ
- 2.人間発達の可塑性 (1)
- 3.人間発達の可塑性 (2)
- 4.人間発達の可塑性 (3)
- 5.言語と意識の起源
- 6.世界認識の形成の開始—象徴機能の発生 (1) —
- 7.世界認識の形成の開始—象徴機能の発生 (2) —
- 8.世界認識の形成の開始—象徴機能の発生 (3) —
- 9.言語の発達
- 10.言語・認知の発達の研究方法論
- 11.言語の発達—言語獲得における臨界期
- 12.子どもの嘘
- 13.読み書き能力の発達
- 14.子どもの理解
- 15.まとめ

評価

講義への参加度 (質問、コメントを募る、討論に参加する) 20%、授業終了時に書く授業に対するコメント10%、期末レポート70%で評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書：内田伸子著 発達心理学—ことばの獲得と教育— 岩波書店 2002

推薦書：藤永 保・斎賀久敬・春日 喬・内田伸子 人間発達と初期環境 有斐閣 1987

内田伸子 子どもの文章—書くこと・考えること 東京大学出版会 1990

内田伸子 言語発達心理学 放送大学教育振興会 1998

内田伸子 想像力—創造の泉をさぐる— 講談社 1994

科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修科目のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

臨床心理学とは、何らかの心の問題や葛藤を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて援助するための学問である。本科目では、臨床心理学の初歩的な知識を学ぶことを目的とする。具体的には、心の問題や精神疾患に関する専門的知識、心の状態を測定するための各種の心理検査法、そして当事者への支援や介入を行うための様々なカウンセリングの理論や技法についても取り上げる。また、臨床心理学が現代社会にどのように生かされているか、実践領域での具体例も随時紹介していきたい。

学修目標

臨床心理学の初歩的な知識を学ぶ。

内容

1	臨床心理学とは何か
2	心の病 うつ病
3	心の病 統合失調症
4	心の病 不安障害
5	心の病 まとめと確認テスト・解説
6	心理検査 アセスメントとは何か
7	心理検査 質問紙法
8	心理検査 投影法・描画法
9	心理検査 まとめと確認テスト・解説
10	心理療法 コラージュ療法を理解するための演習
11	心理療法 心理療法とは何か
12	心理療法 精神分析
13	心理療法 認知行動療法
14	心理療法 クライアント中心療法
15	期末テスト

評価

確認テスト（15点×2回）と期末テスト70点により、評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉原一昭監修 「はじめて学ぶ人のための臨床心理学」 中央法規

科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修科目のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

臨床心理学とは、何らかの心の問題や葛藤を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて援助するための学問である。本科目では、臨床心理学の初歩的な知識を学ぶことを目的とする。具体的には、心の問題や精神疾患に関する専門的知識、心の状態を測定するための各種の心理検査法、そして当事者への支援や介入を行うための様々なカウンセリングの理論や技法についても取り上げる。また、臨床心理学が現代社会にどのように生かされているか、実践領域での具体例も随時紹介していきたい。

学修目標

臨床心理学の初歩的な知識を学ぶ。

内容

1	臨床心理学とは何か
2	心の病 うつ病
3	心の病 統合失調症
4	心の病 不安障害
5	心の病 まとめと確認テスト・解説
6	心理検査 アセスメントとは何か
7	心理検査 質問紙法
8	心理検査 投影法・描画法
9	心理検査 まとめと確認テスト・解説
10	心理療法 コラージュ療法を理解するための演習
11	心理療法 心理療法とは何か
12	心理療法 精神分析
13	心理療法 認知行動療法
14	心理療法 クライアント中心療法
15	期末テスト

評価

確認テスト（15点×2回）と期末テスト70点により、評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉原一昭監修 「はじめて学ぶ人のための臨床心理学」 中央法規

科目名	カウンセリング基礎（理論）		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

カール・ロジャーズは、カウンセリングを「個人との継続的・直接的接触で、その個人を援助して行動・態度の変容を図る」とことと定義している。このカウンセリングに関連するキーワードとして、「コミュニケーション」「相談援助」「自己成長」などがあるが、授業を通してこれらの学びを実践的に深めていく。したがって、一方通行の授業ではなく、「考える」「発表する」「書く」などの作業を通して、カウンセリングの基礎基本を理解していく。

学修目標は、カウンセリングの理論についての基礎的知識を学び、さらにカウンセリングの実際についての基本的理解を深めることにある。

内容

1	はじめに
2	カウンセリングとは
3	カウンセリングの方法原則（1）
4	カウンセリングの方法原則（2）
5	カウンセリングのすすめ方（1）
6	カウンセリングのすすめ方（2）
7	ラポールと共感的理解の図り方
8	クライアント（来談者）理解の深化の方法（1）
9	クライアント（来談者）理解の深化の方法（2）
10	クライアント（来談者）理解の深化の方法（3）
11	働きかけの技術
12	主なカウンセリング技法の概要（1）
13	主なカウンセリング技法の概要（2）
14	主なカウンセリング技法の概要（3）
15	カウンセラーになるための心得と訓練について

評価

授業中の課題への解答（30%）、試験（70%）。2/3以上出席することで評価を受けることができる。合格点（60点）に達しなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

福山清蔵著 入門カウンセリングワークブック 日精研心理臨床センター編

科目名	カウンセリング基礎（理論）		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

カール・ロジャーズは、カウンセリングを「個人との継続的・直接的接触で、その個人を援助して行動・態度の変容を図る」とことと定義している。このカウンセリングに関連するキーワードとして、「コミュニケーション」「相談援助」「自己成長」などがあるが、授業を通してこれらの学びを実践的に深めていく。したがって、一方通行の授業ではなく、「考える」「発表する」「書く」などの作業を通して、カウンセリングの基礎基本を理解していく。

学修目標は、カウンセリングの理論についての基礎的知識を学び、さらにカウンセリングの実際についての基本的理解を深めることにある。

内容

1	はじめに
2	カウンセリングとは
3	カウンセリングの方法原則（1）
4	カウンセリングの方法原則（2）
5	カウンセリングのすすめ方（1）
6	カウンセリングのすすめ方（2）
7	ラポールと共感的理解の図り方
8	クライアント（来談者）理解の深化の方法（1）
9	クライアント（来談者）理解の深化の方法（2）
10	クライアント（来談者）理解の深化の方法（3）
11	働きかけの技術
12	主なカウンセリング技法の概要（1）
13	主なカウンセリング技法の概要（2）
14	主なカウンセリング技法の概要（3）
15	カウンセラーになるための心得と訓練について

評価

授業中の課題への解答（30%）、試験（70%）。2/3以上出席することで評価を受けることができる。合格点（60点）に達しなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

福山清蔵著 入門カウンセリングワークブック 日精研心理臨床センター編

科目名	心理統計法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

心理学の実証的研究を進める上で必要不可欠である統計法の基礎を身につける。卒業研究までの多くの専門科目において基礎となる事項を学ぶ。

科目の概要

最初に、記述統計学と呼ばれるデータ集計の基礎を学習する。細かな計算式の解説ではなく、具体的なデータを実際に集計することで、統計用語に親しみ、計算手順を経験し、記述統計の考え方を理解することを重視する。次に、推測統計を学習する。実験計画法に基づいて測定されたデータに対する統計的仮説検定の手順について、具体的なデータの分析を通して習得する。「仮説」をどのように立てるのか、実験・調査の計画の立て方についても、合わせて理解することを目指す。

ほとんどの受講生が統計法について初学であることを考慮して、本科目における統計計算には、コンピュータアプリケーションではなく電卓を用いる。データを丹念に眺めること、計算の意味を理解し、計算手順を厳守する態度を養って欲しい。

学修目標

統計手法の実践力を身につけること、集計結果や検定結果を分析の目的に即して読み解く力を学ぶことが目標である。ほぼ毎回宿題を課すので確実に解答すること。

内容

- 1．ガイダンス、心理統計法の意義
- 2．心理データの測定と尺度
- 3．度数分布
- 4．統計図表（質的変数の図示法、量的変数の図示法）
- 5．代表値（平均値、中央値、最頻値）
- 6．散布度（分散と標準偏差、範囲、四分領域）
- 7．正規分布と相対的位置
- 8．2変数間の相関、線形回帰
- 9．2つの平均の比較（t検定）
- 10．クロス集計
- 11．2乗検定と連関係数
- 12．3つ以上の平均の比較（分散分析）
- 13．記述統計の確認
- 14．統計的検定の応用
- 15．まとめ

評価

数回にわたって行う筆記試験（統計計算と検定が中心）を100点満点により評価を行う。

所定の試験で合格に達しない場合は、夏期休業期間に再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 吉田寿夫 『ほんとうにわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房

【電卓】 計算とメモリ機能（MRとMCが別ボタン）を備えた大きめのサイズの電卓を用意すること（毎時使用します）

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の研究において、実験や調査で収集されたデータに対する統計解析は必須といってもよい。また実際の研究ではデータ解析にはコンピュータアプリケーションが使われることがほとんどであり、その使用も避けては通れないものとなっている。全ての受講生は既に必修科目「心理統計法」を履修し統計解析の基礎を学習してきたはずである。この実習では、「心理統計法」で学んだ種々の統計的方法についてパソコンを使って実習することで、「心理統計法」で学んだ知識の定着、より深い理解を促すとともに、さらに一歩進めて、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析の技術を身につけることを目標とする。分析ツールとしては代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。Ms-Excelは、表やグラフの作成からデータの集計・分析にまで対応できる、多様な機能を備えたソフトで、心理学の研究場面でも活用されている。

内容

1. Ms-Excelの基本操作(1) 表とグラフの作成
2. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示
3. Ms-Excelの基本操作(2) 数値の計算と関数
4. 基本統計量の算出：平均値と標準偏差
5. 2つの平均値の差の検定(1)：対応のないt検定
6. 2つの平均値の差の検定(2)：対応のあるt検定
7. 2つの変数の関係：相関係数
8. Ms-Excelの基本操作(3) ピボットテーブル
9. 度数分布と単純集計
10. クロス集計と 2検定
11. 3つ以上の平均値の差の検定(一元配置分散分析)
12. 尺度の水準と解析方法の選択：質的データと量的データ
13. 調査データの集計・分析

評価

期末レポート70点+授業内での課題30点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の研究において、実験や調査で収集されたデータに対する統計解析は必須といってもよい。また実際の研究ではデータ解析にはコンピュータアプリケーションが使われることがほとんどであり、その使用も避けては通れないものとなっている。全ての受講生は既に必修科目「心理統計法」を履修し統計解析の基礎を学習してきたはずである。この実習では、「心理統計法」で学んだ種々の統計的方法についてパソコンを使って実習することで、「心理統計法」で学んだ知識の定着、より深い理解を促すとともに、さらに一歩進めて、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析の技術を身につけることを目標とする。分析ツールとしては代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。Ms-Excelは、表やグラフの作成からデータの集計・分析にまで対応できる、多様な機能を備えたソフトで、心理学の研究場面でも活用されている。

内容

1. Ms-Excelの基本操作(1) 表とグラフの作成
2. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示
3. Ms-Excelの基本操作(2) 数値の計算と関数
4. 基本統計量の算出：平均値と標準偏差
5. 2つの平均値の差の検定(1)：対応のないt検定
6. 2つの平均値の差の検定(2)：対応のあるt検定
7. 2つの変数の関係：相関係数
8. Ms-Excelの基本操作(3) ピボットテーブル
9. 度数分布と単純集計
10. クロス集計と 2検定
11. 3つ以上の平均値の差の検定(一元配置分散分析)
12. 尺度の水準と解析方法の選択：質的データと量的データ
13. 調査データの集計・分析

評価

期末レポート70点+授業内での課題30点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	角尾 美奈		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の研究において、実験や調査で収集されたデータに対する統計解析は必須といってもよい。また実際の研究ではデータ解析にはコンピュータアプリケーションが使われることがほとんどであり、その使用も避けては通れないものとなっている。全ての受講生は既に必修科目「心理統計法」を履修し統計解析の基礎を学習してきたはずである。この実習では、「心理統計法」で学んだ種々の統計的方法についてパソコンを使って実習することで、「心理統計法」で学んだ知識の定着、より深い理解を促すとともに、さらに一歩進めて、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析の技術を身につけることを目標とする。分析ツールとしては代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。Ms-Excelは、表やグラフの作成からデータの集計・分析にまで対応できる、多様な機能を備えたソフトで、心理学の研究場面でも活用されている。

内容

1. Ms-Excelの基本操作(1) 表とグラフの作成
2. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示
3. Ms-Excelの基本操作(2) 数値の計算と関数
4. 基本統計量の算出：平均値と標準偏差
5. 2つの平均値の差の検定(1)：対応のないt検定
6. 2つの平均値の差の検定(2)：対応のあるt検定
7. 2つの変数の関係：相関係数
8. Ms-Excelの基本操作(3) ピボットテーブル
9. 度数分布と単純集計
10. クロス集計と 2検定
11. 3つ以上の平均値の差の検定(一元配置分散分析)
12. 尺度の水準と解析方法の選択：質的データと量的データ
13. 調査データの集計・分析

評価

期末レポート70点+授業内での課題30点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1)長さの錯視
 - (2)自由再生における系列位置効果
 - (3)囚人のジレンマ
 - (4)観察法
 - (5)眼球運動
3. レポート講評：5つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート(各20点×5=100点)により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1)長さの錯視
 - (2)自由再生における系列位置効果
 - (3)囚人のジレンマ
 - (4)観察法
 - (5)眼球運動
3. レポート講評：5つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート(各20点×5=100点)により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

心理学の基礎となる実証的な研究方法を理解し、その具体的な手法を習得するとともに、心理学の研究報告の形式を身につけることを目的とする。

授業では、受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・被験者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。そのために、データの集計・解析やレポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に実行することが求められる。

学習負担が小さいとはいえないが、心理学研究の基礎を理解し、実感できるとともに、学習の成果が大きい授業であるにとらえ、積極的に取り組んでほしい。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の試行と結果の整理を原則として2週連続で行う。

- (1)長さの錯視
- (2)自由再生における系列位置効果
- (3)囚人のジレンマ
- (4)観察法
- (5)眼球運動

3. レポートの講評

5つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評の3回の授業が行われる。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各課題についての実験レポート(各17点×5=85点)と出席点(15点)により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1)長さの錯視
 - (2)自由再生における系列位置効果
 - (3)囚人のジレンマ
 - (4)観察法
 - (5)眼球運動
3. レポート講評：5つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート(各20点×5=100点)により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1)長さの錯視
 - (2)自由再生における系列位置効果
 - (3)囚人のジレンマ
 - (4)観察法
 - (5)眼球運動
3. レポート講評：5つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート(各20点×5=100点)により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
 - (1)長さの錯視
 - (2)自由再生における系列位置効果
 - (3)囚人のジレンマ
 - (4)観察法
 - (5)眼球運動
3. レポート講評：5つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート(各20点×5=100点)により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、人間発達心理学科の必修科目に指定されています。今後、人間関係における諸問題や集団内での人間行動を学ぶ心理学を履修していくうえで、基礎となる知識を学びます。

科目の概要

人間は、1人有的时候と他者有的时候とは、意識や行動のあり様が異なります。日常的に周囲の他者から受ける影響は大きく、また自分自身が影響を与える一員となることもあります。このような対人場面や集団場面における人間の判断や行動の法則性について、科学的知見に基づいて理解を深めていくことを目指します。

学修目標

本講義の目標と講義計画を確認し、講義で配布されるプリントを整理しながら、内容を正しく理解できるよう心がけるようにしてください。また、毎回講義内で問題を課すので、講義内容に基づいて自分の考えを述べられるようにしてください。

1. 社会心理学の視点の特徴を正しく理解する
2. 他者の存在が人間の意識や行動に与える影響を理解する
3. 対人場面における人間の行動の法則性を理解する
4. 集団と集団との関係で生じる問題について理解する

内容

1	社会心理学の視点
2	社会的認知 : 社会や他者を「適当」に理解する
3	社会的認知 : 社会や他者を歪めて見ることの結末
4	社会的自己: 社会が作る「私」
5	態度と態度変容
6	社会的影響 : 他者に影響される条件、されない条件
7	社会的影響 : 他者に反発する心
8	対人関係の心理学 : 好きと嫌いの法則性
9	対人関係の心理学 : 異性関係を科学する
10	対人関係の心理学 : 親密な関係の発展と崩壊
11	集団の中の個人（同調、服従、責任の分散など）
12	集団間関係（葛藤、偏見、ステレオタイプなど）
13	攻撃と援助
14	社会的ネットワークとメディアコミュニケーション
15	まとめ

評価

講義内の質問カードの提出（15点）及び中間テスト（25点）、試験の成績（60点）で総合的に判断します。ただし、2/3以上の出席がなければ、試験は受けられません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

- ・唐沢かおり(編) / 朝倉心理学講座7社会心理学 / 朝倉書店 / 2005年 3400円
- ・池上知子・遠藤由美(共著) / グラフィック社会心理学 / サイエンス社 / 1998年 2400円

テキストを購入する必要はありません。適宜プリントを配布しながら、講義を進めます。興味や理解をより深めたいと思った方は、参考図書を積極的に読んでみてください。

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、人間発達心理学科の必修科目に指定されています。今後、人間関係における諸問題や集団内での人間行動を学ぶ心理学を履修していくうえで、基礎となる知識を学びます。

科目の概要

人間は、1人有的时候と他者有的时候とは、意識や行動のあり様が異なります。日常的に周囲の他者から受ける影響は大きく、また自分自身が影響を与える一員となることもあります。このような対人場面や集団場面における人間の判断や行動の法則性について、科学的知見に基づいて理解を深めていくことを目指します。

学修目標

本講義の目標と講義計画を確認し、講義で配布されるプリントを整理しながら、内容を正しく理解できるよう心がけるようにしてください。また、毎回講義内で問題を課すので、講義内容に基づいて自分の考えを述べられるようにしてください。

1. 社会心理学の視点の特徴を正しく理解する
2. 他者の存在が人間の意識や行動に与える影響を理解する
3. 対人場面における人間の行動の法則性を理解する
4. 集団と集団との関係で生じる問題について理解する

内容

1	社会心理学の視点
2	社会的認知 : 社会や他者を「適当」に理解する
3	社会的認知 : 社会や他者を歪めて見ることの結末
4	社会的自己: 社会が作る「私」
5	態度と態度変容
6	社会的影響 : 他者に影響される条件、されない条件
7	社会的影響 : 他者に反発する心
8	対人関係の心理学 : 好きと嫌いの法則性
9	対人関係の心理学 : 異性関係を科学する
10	対人関係の心理学 : 親密な関係の発展と崩壊
11	集団の中の個人（同調、服従、責任の分散など）
12	集団間関係（葛藤、偏見、ステレオタイプなど）
13	攻撃と援助
14	社会的ネットワークとメディアコミュニケーション
15	まとめ

評価

講義内の質問カードの提出（15点）及び中間テスト（25点）、試験の成績（60点）で総合的に判断します。ただし、2/3以上の出席がなければ、試験は受けられません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

- ・唐沢かおり(編) / 朝倉心理学講座7社会心理学 / 朝倉書店 / 2005年 3400円
- ・池上知子・遠藤由美(共著) / グラフィック社会心理学 / サイエンス社 / 1998年 2400円

テキストを購入する必要はありません。適宜プリントを配布しながら、講義を進めます。興味や理解をより深めたいと思った方は、参考図書を積極的に読んでみてください。

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門選択科目のうち初学者を対象とした科目である。人間関係の基礎となるコミュニケーションへの理解を深める。

科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

内容

1. コミュニケーション行動と心理学
2. 対人コミュニケーションの成立
3. 対人コミュニケーションの特徴
4. 言語とコミュニケーション
5. 言語コミュニケーションの特質
6. 非言語メディアによるコミュニケーション
7. 自己開示の概念と領域
8. 自己開示が果たす機能
9. 自己開示を規定する要因
10. 自己呈示と社会的スキル
11. 防衛的自己呈示と主張的自己提示
12. 他者を動かすコミュニケーション(要請承諾・説得)
13. 説得的コミュニケーションと態度変容
14. 要請技法と心理的效果
15. まとめ

評価

授業内の小課題20点、期末テスト80点、の計100点満点により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	性格心理学		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

人間発達心理学科における生活科目領域の科目で、初学者を対象としている。人間理解の基礎となるパーソナリティーへの理解を深める。

【科目の概要】

なぜ人には「性格」というものがあり、それはどのようなことに影響され、どのように形成されるのか、自分のあるいは他人の性格を変えることはできないか、などといった事柄について学んでいく。具体的には、まず類型論と特性論による性格理論を概観すると同時に、遺伝と性格との関係、環境や文化と性格との関係など性格心理学の基本的な理論について学んでいく。

【学修目標】

性格に関する諸理論や性格が形成される過程について学び、自分および他者に対する理解を深めることで心理学的な基礎知識を身につける。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	性格とは何か? ~ イントロダクション
2	性格の見分け方 ~ 類型論
3	性格の見分け方 ~ 特性論
4	性格はどうやって決まる? ~ 遺伝と性格
5	性格の違いはどこからくる? ~ 家族と性格
6	性格の違いはどこからくる? ~ 兄弟と性格
7	中間まとめ
8	性格の違いはどこからくる? ~ 環境/文化と性格
9	性格は変えられる? ~ ライフサイクルと性格
10	性格は変えられる? ~ 地位/役割と性格
11	性格は変えられる? ~ 適応/不適応と性格
12	好かれる性格, 困った性格とは?
13	病気になりやすい性格とは?
14	性格心理アセスメント ~ 性格をどのように測定するか?
15	総合まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】清水弘司著 『はじめてふれる性格心理学』 サイエンス社 1998

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	教育心理学		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、学校教育の諸活動に活用しうる心理学的知識への理解を深めるための科目である。

科目の概要

児童生徒の心身の発達、学習・教授学習過程の特質などを中心に取り上げる。さらに、学校教育における「生きる力を育む」ための「学び」の本質を理解することをめざす。さらに、受講生自身や級友・学友たちがどのように学び成長し発達してきたのかについて、教育心理学の視点や知見を提示し、より客観的に理解する機会も提供する。

学修目標

児童期から青年期へと移行していく児童・生徒の心理的諸特性がどのように発達するのかをより深く理解し、子ども理解に役立てようとする態度をもつ。さらに、学校における多様な学習活動の過程や意義を理解するために、教育心理学的な知見を適用しつつ客観的科学的に分析する態度を養う。

内容

1. 子ども理解・学習活動の理解と教育心理学
2. 知能の発達と学力
3. 道徳性の発達
4. 社会性の発達
5. 教師と子ども間関係、子ども間の人間関係の発達
6. 諸特性の発達を測定する方法
7. 学習過程の基礎(1) 心理学における学習、条件づけ
8. 学習過程の基礎(2) 学習意欲と統制感・原因帰属
9. 学習過程の基礎(3) 観察学習、学習の諸相
10. 学習過程の基礎(4) 記憶、メタ認知、問題解決としての学習
11. 学習過程の基礎(5) 学習指導に生かす教育評価のあり方
12. 子どもの個人差に応じた学習指導
13. 学校における不適応
14. 特別支援教育の理解
15. 学習のまとめと確認

評価

期末試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	学校保健		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。学修目標として 学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。 学校保健における基礎的事項について理解する。 学校保健における養護教諭の役割を理解する。

内容

1	学校教育と学校保健について
2	学校保健の意義と関連法規について
3	学校保健の領域構造と学校保健関係者について
4	学校保健計画の法的根拠と意義、内容について
5	学校における保健教育について
6	保健指導の進め方について
7	健康相談の意義と進め方について
8	養護教諭が行う健康相談について
9	健康観察の意義と法的根拠について
10	健康観察の機会と方法について
11	健康診断の意義と法的根拠について
12	健康診断の種類と項目について
13	健康診断の計画と実施について
14	健康診断の事後措置について
15	まとめ

評価

筆記試験(小テストを含む)9割、通常の授業態度1割により評価し、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：養護教諭のための学校保健<第10版> 出井美智子他 少年写真新聞社

推薦書：授業中に適宜示す

科目名	免疫学		
担当教員名	扇元 敬司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理に関する免疫とアレルギーを扇元敬司著の教科書(日本図書館協会推薦図書)のよって学ぶ。

科目の概要

免疫とアレルギー - について教科書項目に沿って解説する。さらにその後、要点とまとめをわかりやすくスライド(PowerPoint)で説明する。なお使用した「スライド」は講義終了後に学内ネットワーク[フォルダUドライブ]に開示して学習の参考に供する。

学修目標

免疫とアレルギー - の基礎を理解することを学修目標とする。

1. 高校で学んだ免疫とアレルギー - の知識を整理する。
2. 免疫とアレルギー - の歴史について理解する。
3. 自然免疫と獲得免疫について学ぶ。
4. 感染症とワクチンについて理解する。
5. 免疫異常とアレルギー - 型別について学ぶ。

内容

1. 部: 生体防御・免疫システム。免疫学とアレルギーの歴史。
2. 自然免疫システム。
3. 免疫を担当する器官と細胞。
4. 獲得免疫システム。
5. サイトカイン・エフェクター細胞。
6. 感染症とワクチン・移植免疫と腫瘍免疫。
7. 部: 免疫異常・アレルギー - 。エイズ・免疫不全症・自己免疫疾患。
8. アレルギー・アナフラキシー。
9. アレルギー対策・予防・検査法。
10. アレルゲン。
11. 花粉症・鼻アレルギー・眼アレルギー - 。
12. アトピー・アレルギー性鼻炎・蕁麻疹。
13. 小児アレルギー・気管支ぜんそく。
14. 食物アレルギー・環境アレルギー・シックハウス。
15. まとめ(職業アレルギー・心理免疫アレルギー)

評価

中間テスト(40点)、期末テスト(40点)、授業態度(20点)によって評価をおこない、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講義」 講談社(2007)

【推薦書】扇元敬司 訳。K.Vedhara・M.Irwin著「心理免疫学概論」 川島書店（2008）

科目名	衛生学		
担当教員名	鎌田 恒夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人は生命を育む自然環境、日常生活を支える生活環境および社会環境の中で生きている。健康で豊かな生活を確保するためには、環境に適応するだけでなく、環境を変えていく必要がある。健康を保持・増進し、生命を延長し、身体的・精神的能力を十分に発揮することは多くの人々が望むところである。一人ひとりが衛生的な生活を営むことにより公衆衛生が達成される、また公衆衛生が達成されれば個人の衛生も守られる。人の衛生は直接的には物理的、化学的および生物学的環境にかかわりあい深く、それらが生体に及ぼす影響について講述する。

内容

- | | | | |
|-----|-----|--------------|---------------------------|
| 1. | 1 章 | 物理的要因による健康障害 | 紫外線 |
| 2. | | 物理的要因による健康障害 | 熱中症、高山病 |
| 3. | | 物理的要因による健康障害 | 放射線障害 |
| 4. | 2 章 | 物質の安全性 | 毒性の発現、摂取量と生体反応 |
| 5. | | 物質の安全性 | 毒性の評価, 食品添加物の安全性 |
| 6. | | 物質の安全性 | 発ガン物質（ニトロソアミン、カビ毒、ダイオキシン） |
| 7. | | 物質の安全性 | 粉塵、アスベスト |
| 8. | | 物質の安全性 | ナノマテリアル |
| 9. | 3 章 | 屋内環境 | 近隣騒音 |
| 10. | | 屋内環境 | 化学物質過敏症 |
| 11. | | 屋内環境 | ダニアレルギー |
| 12. | 4 章 | 環境問題 | 従来 of 公害問題 |
| 13. | | 環境問題 | 個人が発生源になる都市型公害 |
| 14. | | 環境問題 | 環境ホルモン |
| 15. | | 環境問題 | 地球温暖化 |

評価

単元毎、4回のペーパーテストによる。
得点率60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】村松宰、梶本雅俊編 『公衆衛生学 栄養科学シリーズ』 講談社